Arao Star 3

地域を守る人たち

団長 西田（にしだ） 学（まなぶ）さん

荒尾市消防団

▲毎年、消防出初式では気を引き締めて防災活動に尽力することを誓います。

大切なのは、一人ひとりの「防災意識」

熊本県全域に大きな被害をもたらした令和2年7月豪雨。市内を流れる関川の氾濫で深瀬地区をはじめ、多くの市民が避難生活を余儀なくされました。

「災害時に必要なのは、まず正確な情報を集めること。当時、副団長を務めていた私は、市の災害対策本部で情報収集係として、各エリアの分団から届く情報を集約し、団員たちの指揮を取りました。市民と団員のリスク管理をしながら瞬時の判断を求められる状況は、葛藤の連続でした」と振り返る、消防団長の西田（にしだ）さん。

消防団では、市全体で20代から70代まで400人以上の団員が活躍中です。「親子ほど年の離れた団員たちと〝地域を守る〟という目標に向かって訓練を続けています。もしもの時には一丸となって人命救助に徹する消防団の活動に、大きなやりがいを感じます。日頃から〝防災〟を意識することが一番の防災です」と語る表情には、団長としての使命感がにじんでいました。

▲定期的に消防団分団長部長会議なども行われ、災害時に備えます。

▲新入団員の座学の様子。人材育成にも力を入れています。

▲「ポンプ操法」の速さや正確さを競う全国大会に出場したことも!

荒尾市自主防災組織連絡協議会

安心安全は当たり前じゃない 長期的な視点で人材育成を

各地区の連携を促すために発足した荒尾市自主防災組織連絡協議会。コロナ禍での立ち上げとなり、思うように活動できませんでしたが、今後は防災情報の共有や定期的な防災訓練を行うそうです。

「訓練はやらなければ身に付きませんし、やってみることで分かることもあります。〝教育は国家百年の大計である〟という言葉があるように、100年後の地域のために、長期的な人材育成が重要です」。そう語る会長の宮崎さんは、登校する子どもたちの見守りを何十年も続けています。子どもたちに注ぐ温かな眼差しも、そこで交わすコミュニケーションも、宮崎さんなりの防災活動です。安心・安全は、当たり前ではありません。危機意識を引き継いでくれるリーダーがひとりでも多く育つことを宮崎さんも願っています。

会長 宮崎（みやざき） 司（つかさ）さん

東屋形区一丁目 地域安全パトロール隊

日頃の活動の積み重ねが 地域の防犯意識を高める

東屋形地区に住宅が建ち並んだ当初に結成した「東屋形区一丁目地域安全パトロール隊」。その活動は、20年以上も続いています。「当初は、地区の名前を知ってほしい、地域の人々の防犯意識を高めたいと活動を始めました」と話すのは、3代目の隊長を務める濱北（はまきた）さん。隊員と月に数回、21時頃から地区内約3㎞の道のりの見回りをしています。「不審なものや人はいないかはもちろん、一番大事なことは、住民にも、通りすがりの人にも、〝パトロールをしている私たちの姿を〟見てもらうこと〟です。見られることで、地域全体の防犯意識は高まります」と濱北さんはパトロールの大切さを教えてくれました。減少傾向にある次世代を担うパトロール隊員の参画を心待ちにしています！

濱北（はまきた） 竹夫（たけお）さん

中央小学校見守り隊

子どもたちの安全と「元気」を見守る、地域のお父さん

民生委員や大和地区の区長、老人会の会長など、さまざまな役を担う石田（いしだ）さんが「中央小学校見守り隊」を始めたのは、今から23年前のこと。福岡県庁を退職後、地域への恩返しとして、先輩の後を継ぐ形で始めました。以来、毎朝同じ交差点で子どもたちを見守っています。新学期が始まる4月から5月は小学校と連携して、道路の渡り方の指導もするなど、熱心な姿勢はまさに〝地域のお父さん〟的存在です。

「朝の遅い時間にうなだれて登校しよる子には〝朝ご飯は食べたか？〟と声をかけます。いつもと様子が違うところはないか。元気な挨拶が返ってくるか見とるんです」長年見守り続けてきた石田さんの原動力は、子どもたちへの深い愛情と〝良い荒尾にしたい〟という真っ直ぐな願いです。

石田（いしだ） 豊吉（とよきち）さん

※撮影時のみマスクを外しています。